

J A 自己改革推進レポートについて

令和 6 年 1 月 2 4 日
J A 鳥取県中央会

1. J A 自己改革実践状況

(1) J A 鳥取中央の取り組み

①ベジタブルフェア in 大阪を開催

J A 鳥取中央と鳥取県関西本部は 1 1 月 5 日、大阪市の天神橋筋 2 丁目商店街で、「食パラダイス鳥取県・J A 鳥取中央ベジタブルフェア」を開催した。旬で新鮮な秋冬野菜や果物を販売し、購入者に鳥取県産の農産物のおいしさをアピールした。

会場では白ネギやブロッコリー、シャインマスカットなど 1 5 品を陳列し、生産者や J A 職員、大阪中央青果の担当者らが食べ方、保存方法を伝えながら販売。準備していた 2 分の農産物は完売した。

同商店街では飲食店が中心で、青果物を販売する店舗は少ない。来場者からは「開催を楽しみに待っていた。産地直送で安心して買える。」と喜びの声が上がった。J A 鳥取中央の木下拓也農産部長は「鳥取県産の農産物は美味しくて新鮮というイメージを持っている人が多いと感じた。改めて年間を通じて良質なものを消費地へ送り届ける責任があると感じた」と話した。



② J A 鳥取中央倉吉西瓜生産部総会 産地振興プロジェクト部会設置

J A 鳥取中央倉吉西瓜生産部会は 1 1 月 2 9 日、倉吉市で「令和 5 年度倉吉西瓜生産部総会」を開催した。

総会には、生産者や J A 関係者など 8 0 人が出席し、令和 5 年度の販売実績の報告や、令和 6 年度の販売対策を協議。令和 5 年度の倉吉西瓜は、大玉で秀品率は前年より増加。それに伴い、西瓜の平均単価は 1 ㎏ 当たり 2 5 9 円と令和 4 年度から 1 1 円増となり、

販売金額は 1 3 億 5 9 8 3 万円を達成した。更なる売上の向上に向け、新規就農者の獲得、産地 P R などに取り組む産地振興プロジェクト部会を設置することを確認した。

同部会の岸本健志部長は、「令和 6 年 5 月末には、新選果機の稼働を予定し、より高品質な出荷が期待できる。倉吉西瓜のブランドを守っていこう」と意気込みを話した。

令和 6 年度は生産者 1 2 1 人が 1 0 7 畝で栽培し、総出荷量 7 5 万玉、販売金額 1 4 億 5 0 0 0 万円を目指す。



③特産ねばりっこ収穫に挑戦

J A鳥取中央は12月9日、全国農協観光協会が主催する「援農・体験交流」の一環で行われた『J A鳥取中央特産「ねばりっこ」収穫体験バスツアー』に協力した。体験型の旅行企画を通じて農業や農畜産物の魅力の発信を図ろうとするもの。

今回は、関西地方から21人がツアーに参加。同J A長芋生産部の遠藤忠充部長のほ場で、砂地から1人1本ずつスコップで掘り出す収穫作業に挑戦した。参加者は収穫中に折れてしまったり、大きなねばりっこを収穫したりする度に声を上げ、収穫体験を楽しんだ。参加した女性は、「ねばりっこは思った以上に長さがあり、掘るのが大変だった。色々なレシピを知り、料理で活用したい」と話した。

参加者はこのほかにも、J A鳥取中央の直売所「ハワイ夢マーケット」、東郷地区松崎駅南梨団地、二十世紀梨記念館「なしっこ館」で買い物や見学を行った。



以上